

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070501152
法人名	特定非営利活動法人虹の会
事業所名	グループホームいそねの里
所在地	北九州市小倉南区中曾根東2-16-36 (電話) (093) 475-5583

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	20年 8月 6日	評価確定日	20年 9月 8日

【情報提供票より】 (平成20年7月24日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 14人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要 (平成20年7月31日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人木村内科外科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧北九州空港跡地のすぐ近くに位置する事業所で、民家の中にある2ユニットにデイサービスが併設されている。事業所の理念には利用者がいつまでも夢が持てる生活を支援したいという大きな目標を掲げられ、それを職員のきめ細やかな介護で実践している。職員の研修も充実しており、年間の研修計画を作り職員の教育にも熱心に取り組み、他の事業所との交流も実施している。また職員のリフレッシュ休暇を導入し、職員が意欲を持って介護に取り組む工夫もなされている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価後の改善状況というプリントを作成し、課題とその取組状況を明らかにし職員や運営推進会議に提示し取り組んでいる。現在は地域密着型の視点を持った理念の作成を職員全体で取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に意見を聞き全員で取り組んでいる。管理者やユニットの責任者がそれを集約し作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催され、利用者に対する介護の実態や外部評価への取り組みを報告している。最近の会議には写真を資料として添付し、より実態が分かるように工夫をしている。会議で出た職員を含めた喫煙の対応についての意見に対し、禁煙分煙について方針を出した事例がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	事業所便りを毎月発行し、事業計画のお知らせや報告を行っている。またユニット「虹」では、独自の広報紙を発行している。個々人の暮らしぶりを担当職員が手書きで家族に知らせている。家族会で伝達する機会もあるが、普段は家族が訪問したときに報告している。金銭の預かりは行っていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会・自治会に加入し、事業所便りを地域に配布している。また、地域の清掃活動にも職員が参加している。学生ボランティアとして高校生、実習生として専門学校生を受け入れ、近くの保育園の発表会に招待されるなど地元との交流を行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所全体の理念は「夢と希望を永遠に」である。理念を具体化した文言もあるが、地域密着型の視点が含まれていない。	○	全職員で現在検討中なので、これまでの理念に地域密着型サービスの視点を加えた新たな理念をつくりあげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、具体的な目標を作ってユニットごとの会議で話し合いを継続している。	○	地域密着型サービスの視点を加えた事業所独自の理念をつくりあげて、それを全職員で共有し、理念の実践に向けて、日々取り組んでほしい。
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・自治会に加入し、事業所便りを地域に配布している。また、地域の清掃活動にも職員が参加している。学生ボランティアとして高校生、実習生として専門学校生を受け入れ、近くの保育園の発表会に招待されるなど地元との交流を行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は外部評価や自己評価の意義を理解している。今回の自己評価については、職員全員の意見を聞き各ユニットの主任が集約している。外部評価については、改善点などをユニット会議で話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催され、利用者に対する介護の実態や外部評価への取り組みを報告している。最近の会議には写真を資料として添付し、より実態が分かるように工夫をしている。会議で出た職員を含めた喫煙の対応についての意見に対し、禁煙分煙について方針を出した事例がある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが中心になって開催している事業所との連絡会議に参加している。また行政と連携し、他事業所とも勉強会を行うなど、サービスの向上を目指して努力している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関しては利用時に家族と本人に説明し、また必要に応じてその都度説明している。職員は外部研修に参加し、勉強会や内部研修で伝達している。テキストや資料、会議レポートがあり、職員は制度を周知している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所便りを毎月発行し、事業計画のお知らせや報告を行っている。またユニット「虹」では、独自の広報紙を発行している。個々人の暮らしぶりを担当職員が手書きで家族に知らせている。家族会で伝達する機会もあるが、普段は家族が訪問したときに報告している。金銭の預かりは行っていない。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問したときに普段の暮らしぶりや、家族の意見を聴くように心がけている。また、家族会があり意見を聴く機会がある。食事が十分に取れない利用者に好物を持ってきてもらったりする等、家族の意見を反映している。利用時に第三者窓口を説明し、重要事項説明書等に掲載している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	リフレッシュ休暇を導入したり、主任や副主任制度を設け、職員の面接をして職場での不満や悩みを聞くようにしている。また、やむを得ず離職する場合は、十分引継ぎ期間を取り、利用者の不安を取り除くようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたって特に制限は設けていない。また長く働けるよう定年も延長されている。自己実現のための資格の取得等にも理解があり、研修の参加や勉強する機会を提供し、勤務体制の配慮を行っている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>外部研修で高齢者問題や認知症について等の研修に参加し、また内部での研修で、人権啓発活動に取り組んでいる。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>働きながら資格を取得することも可能で、そのために勤務の配慮もしている。また年間の内部研修計画もあり年に7回くらいの割合で研修が開かれている。全国ネットワークにも参加しているので、外部の専門研修も受けられる。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会や全国ネットワークに加入している。また地域の同業者と組織を作り研修や人事交流を行い、終了後にはレポートを出して意見交換を行っている。お互いに切磋琢磨しサービスの向上に努めている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前の見学を行い、自宅や施設、病院などに訪問してコンタクトを取っている。利用者を良く理解するために家族や関係者に話を聴くようにしている。やむを得ず即入居になった場合は、家族にしばらく寄り添ってもらうなど個人のニーズに合わせた対応をして馴染めるように工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互いに助け合って暮らしている場面が多い。食事の準備や後片付け、洗濯物干し等、日常生活で出来る事はしてもらっている。また梅干を職員が教わりながら漬けたり、繕い物やボタン付けを手伝ってもらうなど、本人から学んだり、支えあいながら日々を送っている。		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの様子を見ながら、思いや希望の把握に努めている。特に意思表示ができない方には顔の表情や家族からの情報等を参考にし、少しでも本人の望みをかなえられるように問いかけ、反応を見ながら決定するようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族から希望を聴き、担当職員とケアマネジャーが素案を立て、次に管理者を含むケアプラン会議を開いて検討している。また職員の気づきや意見・アイデアを反映しながら個別的な計画を作成している。介護計画には本人や家族の希望などが明記され、家族の押印がある。		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの期間は原則として3ヶ月であるが、状態の変化に応じて随時見直している。緊急時には電話で家族の了解を得て介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の入院時には家族及び医療機関と協議し、早期退院にむけて連携を図っている。通院や送迎など必要に応じて支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と話し合い同意のもと、全員が協力医院にかかっている。2週間に1回往診があり、利用者の健康状態を確認している。家族には毎月受診の報告をしているが、状態によってはその都度家族へ電話連絡をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の介護や重度化した場合の「看取りの指針」がある。利用時に家族に説明し理解を得ているが、状態の変化に応じてその都度話し合っ決めていく。職員も方針や情報を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの性格や考え方にも配慮しながら、誇りやプライバシーを損ねることがないように言葉掛けや対応に気を付けている。記録簿等の個人情報の取り扱いについては秘密保持を徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。職員と利用者が同じテーブルで同じ物を食べ、楽しく食事ができるよう雰囲気作りに配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>おおまかな入浴時間の設定はあるが、利用者の希望等に合わせて柔軟に対応し入浴を楽しめるように支援している。入浴拒否の利用者については、一人ひとりのタイミングや意向・希望に応じた入浴ができるよう臨機応変に支援している。</p>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は利用者の出来ることや得意なことを把握して、食事作り・梅干し漬け・干し柿作り・床漬けなど楽しみごとも含めて一人ひとりに合った支援をしている。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候や利用者の状態にもよるが、散歩や買い物・ドライブ、半年に1回の外食等を行っている。</p>		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中の施錠はない。職員は利用者の外出傾向を把握しており、さりげなく気配りをしている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害対策マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。また飲料水・非常食を準備している。</p>	○	<p>今後はいざと言うときのために、運営推進委員等を通じ、地域住民の参加・協力を得ながら避難訓練を実施してほしい。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者全員の栄養摂取量および水分摂取量を記録している。また利用者の状態や嗜好・要望に合わせて職員がバランスよく献立を作成している。</p>	○	<p>最低年1回は、栄養士等による専門的アドバイスやチェックを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。</p>
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>2つのユニットには天窓があり、利用者がくつろぐソファを置いた場所にも適度な自然光が差し込み、居心地よい空間となっている。室内の飾り付けは利用者とともに考えて一工夫され、習字の得意な利用者が書いた作品等が飾られている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は個人の趣味のものや家族の写真、各自の作品等を飾り、それぞれの個性を生かした部屋作りになっている。仏壇を持込んでいる人もいて、利用者主体の部屋作りを心がけている。</p>		

※  は、重点項目。